

2015 年度活動報告 大学院授業：日本語（口頭発表 A・B）

竹内 茜（関西学院大学日本語教育センター）

1. 到達目標

ゼミでの研究発表さらには、学会での発表も視野に入れ、プレゼンテーションする際の留意事項を学び、実際にプレゼンテーションを行う。また、行われたプレゼンテーションについて、自己評価・相互評価をし、客観的に見る力を養う。

2. 2015 年度の授業内容

主な授業内容は、以下の 6 点である。

- (1) ミニスピーチ（2 回）
- (2) プレゼンテーションの際の留意点を学ぶ
- (3) 自由課題のプレゼンテーション及びその相互評価・自己評価（1 回）
- (4) わかりやすいスライドの作り方・引用について・フィラーについて
- (5) 専門分野についてのプレゼンテーション及びその相互評価・自己評価（2 回）
- (6) パラフレーズ演習

3. 成果と課題

今学期は、発表の機会をできる限り増やそうと、ミニスピーチを 2 回、プレゼンテーションを 3 回行った。学期の最後のアンケートでは、何度も発表できたので役に立ったという声が多かった。プレゼンテーションを録画したものを、次の授業内で見える時間を設けたが、それについても、お互いに評価しあえたことが良かったという意見が多く見られた。

プレゼンテーションの内訳としては、自由課題を 1 回、各自の専門分野のプレゼンテーションを 2 回とした。専門分野のプレゼンテーションでは、2 回目は、1 回目と同じ内容で、1 回目を受けたフィードバックを反映させたものを発表する、ということにした。これについても、改善した箇所がわかりやすく、とても好評であった。

要望として挙げたのは、プレゼンのスキルや内容構成なども学びたい、質問に対する答え方や、使ったほうがいい文体、使わないほうがいい文体などを知りたい、などである。また、受講者が少ないことに対する不満も、春・秋ともに挙がっていた。受講者数が増えれば、もっと多くの視点から気づきを得られるのではないかと思う。

4. 今後に向けて

要望として挙がっていた、プレゼンのスキルや内容構成についても、今後は授業の中で取り入れていきたい。質問の答え方についても声が上がっているが、学生の専門分野が異なるため、踏み込んだ質問がどうしてもできず、本番の場面とはかけ離れたものになることが多く、対応が困難である。これについては、今後対応策を考えていきたい。

参考文献

- 石黒圭編著 2011『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動 40』スリーエーネットワーク
- 鎌田美千子・仁科浩美 2014『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
- 後藤文彦 2008『良いプレゼン 悪いプレゼン—わかりやすいプレゼンテーションのために』カットシステム
- 銅直信子・坂東実子 2013『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』国書刊行会
- 藤沢晃治 2002『「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール』講談社
- 宮野公樹 2013『研究発表のためのスライドデザイン 「わかりやすいスライド」作りのルール』講談社
- 村上治美 2010『日本語中級表現—アカデミック・ジャパニーズ表現の基礎』東海大学出版会